



## 静岡の進路と課題(三)

徳川宗家十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川恒孝



前の二つの号でオランダとドイツの話をしました。この二つの国はとも地方自治の力が強い国です。ドイツには十六の連邦州があり、各州が教育、財政、法律など大きな自治権を持っていますし、オランダも小国ですがロッテルダム、アムステルダム、二大都市は僅か数十キロの距離にありながら、日本の都市よりは遥かに大きい自治権と夫々の強い個性を持っています。日本でも江戸時代の各藩は経済的には完全に独立していましたから、各藩の財政改善の為に土農工商の連合体が江戸や大阪等の大消費地に輸出する名産品作りに励みました。その点静岡は家康公ゆかりの地として駿府代官の治める天領でしたから、今日に続くのびのびとした温かい気風が育ったのだと思います。何でもないうように見えますが、このおらかな温かさは静岡の宝物と思います。

前号で静岡の位置がとても大切なところであると書きましたが、第二東名ができたことで更に荷主さん達の清水港の利用度が増えれば、今度は船の寄港が増えます。船は貨物の集まる港へ集まりますし、貨物は輸送コストが安くて便の多い港へ集まります。この良いサイクルに乗れるか、乗れないかの差はとも大きいものですから、是非静岡市全体が清水港を中心に、さらに空陸も加えた物流拠点となることに力を合わせて、新しい産業の誘致や、素晴らしい文化を作り出して旅人の集まる街になって欲しいと思います。

私は過去五〇年、海外勤務時代を除けば、毎年静岡(清水)に来ていました。将軍様役で来る静岡と、日本郵船の若手社員として来た清水では随分違います。清水港で蜜柑の船

積の立会いとして徹夜で積荷を見ているのも楽しい思い出です。その時食べたお寿司が実に美味かったのも大切な思い出です。

もう何年か前ですが、グランシップで世界寿司祭りが開催された時、各国の大使夫妻を御招きしたことが有りました。皆様大変に喜ばれて、もう帰国された大使夫人から今も家内宛に御寿司が美味しかった思い出の手紙が来たりしているようですが、旅の思い出というのは、素晴らしい景色や面白い物もありますが、何よりも迎えてくれた人々の温かい笑顔と真心、そして美味しい食べ物の記憶もとても重要です。

静岡を訪れる方々が静岡のゆつたりとした明るさと、美味しい食べ物。人々の温かい心の想い出を胸にして帰られることは、これからの静岡にとって大切なことと思っております。